巻　頭　言

With，Post コロナ時代の学術研究

院長　平 岡　眞 寛

令和 2 年度は，新型コロナウイルス感染症（以下 covid-19）に翻弄された 1 年でした．令和元年の年末に中国武漢で発生した covid-19 は，瞬く間に世界を席巻しました．日本赤十字社和歌山医療センター（以下：当医療センター）は，和歌山県，和歌山市（保健所）と連携しながら，外来，救急，入院診療いずれにおいてもこの新興感染症に正面から取り組みました．中等症以上の患者診療では和歌山での中核機能を担うなど大きな貢献が行えたことは，当センターの誇りです．

本感染症の猛威は凄まじく，1 月 23 日の時点で，世界で 9,900 万人超の感染者，210 万人超の死亡者を数えています．国内においても，第一波，第二波は収束されましたが，昨年末に到来した第三波は，重症者の急激な増加も相まって医療崩壊が起こりつつあるという危機的状況です．2 月末にはワクチン接種が開始されるなど明るいニュースもありますが，完全終息にはなお年単位の対応が必要と思われます．

歴史を振り返ってみると，過去に社会全体に大きな影響を与えた感染症が幾度か起こり，中には，社会そのものの大きな変革を引き起こしたものもあります．その最たるものは，中世に発生したペストでしょう．欧州では人口が 3 分の 1 に減少し封建制の象徴であった領主が没落しました．また，教会の権威が大きく揺らぎ宗教改革へと繋がっていきました．ルネサンスが勃発し，欧州が中世から近代へと移行するきっかけとなりました．

With コロナ Post コロナ時代という言葉がマスコミを賑わしていますが，covid-19 は大きな社会変革を引き起こそうとしています．社会とともに歩む医療も例外ではなく，社会が求める病院に進化し続けなければなりません．今後起こる社会変革のキーワードは，ICT（通信技術）の活用でしょう．身近なところでは，この 1 年間に学会，研究会はほぼウエブ開催となり，オンライン診療も開始されました．政府はデジタル庁創設を掲げ，日本をデジタル王国に押し上げようとしています．当医療センターは，各種の運用が紙ベースで行われるなどデジタル化が進んでおらず，今年の目標に ICT 推進を掲げました．今年をデジタル元年と捉え，必要な整備を今後系統だって行う予定です．地政学的な弱点克服，優れた人材のリクルート，働き方改革の支援，地域の医療機関・住民との連携，豊富な症例を用いた臨床研究の推進など，ICT 基盤強化により多様な展開が期待されます．

当医療センターの学術発表のプラットフォームであった「日赤和歌山ルネサンス」が，今年から装いを変えます．令和の新たなルネサンスが，今後も時代と共に発展することを願っています．

令和 2 年度の Medical Journal of Japanese Red Cross Wakayama Medical Center（日本赤十字社和歌山医療センター医学雑誌）をお届けします．

昨年，当誌が質量ともに充実してきたと嬉しい報告ができましたが，本年はそれをも超える内容となっています．拝読いただければ幸いです．ご尽力いただいた学術委員会の関係者には感謝いたします．学術研究には即効性はありませんが，確実に医療の質を向上させる力があります．当センターの学術研究の発展に，皆様のご支援ご協力をよろしくお願いします．